

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>**家庭内暴力の初期相談窓口は？**

去る4月17日、愛知県豊川市で家族殺傷事件が起こりました。テレビでそのニュースを聞いたときは、どうか「ひきこもり」の若者でありませうようにと、祈るばかりでした。

ところが、18日の産経朝刊は残念ながら「ひきこもり15年」と大きく書かれていました。

「ひきこもり」＝「危険」と社会からレッテルを貼られかねません。

また「ひきこもり」を知らない人たちの誤解を招きかねません。この事件について4月例会の話し合いのなかでは、「社会と唯一繋がっているインターネットを、私たちは子どもに無断で解約したりしません。無断ですること自体考えられない。」という参加者の発言などもありました。

このような悲惨な事件を起こさないためにも、では何処へ相談に行けばいいのか、警察に相談する前の相談窓口は一体何処なのか、そこで「ひきこもり地域支援センター」の役割と次の支援機関にどう繋いでいくのか問題提起された事例のように思いました。

5月の例会を下記の通り開催いたしますので ご案内申し上げます。

<b>第95回月例会ご案内</b>
-------------------

- |               |  |
|---------------|--|
| <b>1) 日時</b>  | <b>5月23日(日)</b>  |
|               | 13:00～13:30 受付   |
|               | 13:30～13:45 報告・連絡(役員)                                      |
|               | 13:45～15:45 <b>テーマ「ひきこもり者の家族と共に考える支援」</b>                  |
|               | 講師 高松市保健所保健センター<br>精神保健係 保健師 <b>大熊永子氏</b>                  |
|               | 16:00～16:25 <b>ビデオ学習「大人のひきこもり」</b><br>(精神科医 中垣内 正和氏 出演ビデオ) |
| <b>2) 場所</b>  | <b>香川県社会福祉総合センター 6階 研修室</b><br>TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い    |
| <b>3) 参加費</b> | 会員：1家族 <b>1000円</b> 非会員：1家族 <b>1500円</b>                   |



まず聞く（聞いてもらえると落ち着く）⇒ 本来持っている家族の力がプラスに働くように引き出させる（夫婦の互いの理解）

◇ カウンセリングは当事者、家族を支える手助けになっている

## 2 なぜひきこもりが継続しているのか。

◇ 親の接し方が威圧的になっている

◇ 子どもとの関係に、不純な感情が入っている

◇ 親の気持ちを整理すること、子どもの心の状態を正しく認識すること

<誤認> ⇒ <さらなる誤認> ⇒ <悪循環>

言葉の裏にある、“否定的な気持ち”について気がつかないと、その“否定的な気持ち”が当事者へと伝わっていく。「わかってくれない、どうせ無駄だ」へ。

◇ ささやかな接し方が大事、伝え方は大きい、大事である



## 3 “正論”では当事者の心はかわらない

◇ 本人に届いて始めて意味がある

◇ “正論”しか言わない父、子どもは違うものを求めている。素の部分求めている。

## 4 「理解する」ことと「道をつける」こと：共に向き合うこと

当事者に向き合うことは、援助する方もまた自分に向き合うこと

当事者と同じ視点に立つこと

◇ 夫婦で（向き合い方）をいろいろ話し合っ、それを伝える

◇ 親の出来る支援に厳しい限界があることを教える、伝える。そして出口を提示する。

クライアントの方向性はクライアント自身が知っている。あとは任せる。

## 5 親子は互いに求めている

であれば、自分の気持ちを話しする場、翻訳すること

## 6 援助のための三層構造 縦糸になるのは、当事者と家族の関係性

◇ 支援の仕方はそのときの状況によって違う

ひきこもっている層：親への援助、親の当事者理解（親が思っている子ども像と本人の実像がズレている場合が多い）

動き始めている層：居場所の必要性、練習の場の必要性（本人の居場所がなければ元気にならない、回復しない。）

社会とつながる層：社会的なネットワークと当事者の歩み寄り（社会（ハローワーク）の方から下りてくる（近付いてくる）ことはない。）本人にピタッと当てはまることは難しい。

◇ 良くなったり悪くなったり徐々に螺旋状に上がっていく、当事者を含めた家族全体が変化することによって、その発達の動きを援助するのがカウンセラー、螺旋状の動きは個人個人によってそれぞれ異なる。

◇ 社会の当事者への理解：一般的な理屈をもって防衛する

相談へと来てくれないから当事者が悪いとの理解

当事者や家族の状態を正しく理解したコミュニケーションできる援助者が必要：親にも悲しむ、泣く、嘆く、子どものことを語る場が必要。

見立てる力、コミュニケーションの力：心療内科・カウンセリング

当事者の能力の把握、その能力支援プログラム開発が必要、弱みと強み（コミュニケーションは苦手だがきちっと仕事出来る面がある、うつ傾向（几帳面で真面目）である、統合失調症？妄想気

味である。) 弱みの部分を生かした対処の仕方も大事である。

- ◇ 情報を得ることは大事、福祉の活用
- ◇ 援助の窓口の一本化して検討

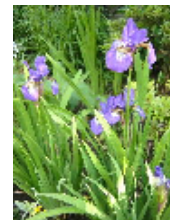
ひきこもることは回復のために必要、どう安全にひきこもるのか。

以 上

### 【映画「アンダンテ～稲の旋律～」上映ご支援のお礼】

お蔭さまで4/24・25日の二日間に涉っての映画会、無事終了いたしました。  
ご支援頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

また、当日のアンケートにもお答え頂き有難うございました。(一部を以下に掲載)



#### ○ ひきこもりを抱える家族の視点から

- ①息子の気持ちと重ね合わせながら、涙が止まりませんでした。  
これからもゆっくりと息子と向き合い、希望を持って歩いて行こうと思います。  
原作者のお話も心温まり、いい映画でした。有難うございました。(60歳以上 女性)
- ②映画も大変よく出来ていたと思いますが、それ以上に原作者のお話は誠実なお人柄がよく伺えて感激しました。自分の子どものケースは少しタイプが違いますが、同じひきこもりの子を持つ立場から拝聴し、涙が止まりませんでした。(60歳以上 女性)
- ③最後のピアノを弾いている場面で涙がでました。卵を割らなければ……。一步踏み出すこと、それができれば変わるんです。100人いれば100の悩みが。ゆっくり先を待ちます。  
(41歳～59歳 女性)
- ④親の期待が如何に子どもの心に大きな負担になっていたのか、知らず知らずの日々が悔やまれてなりません。ゆっくりゆっくり自分を取り戻して欲しいと思いました。(60歳以上 女性)
- ⑤映画の内容が、まるで我が家を見ているようで胸に迫ってくるものがありました。本当に生きる事の大変な時代だと感じます。娘にも生きる気力を取り戻して、「おなかすいたあ～」という元気な声を聞きたい、笑顔を見たいと心より願います。(41歳～59歳 女性)

#### ○ ひきこもり当事者の視点から

- ①自分とダブルところもあって、面白かったです。「卵を割らなければ、オムレツはできない」私も卵を割っていけるよう、頑張りたいと思いました。(21歳～30歳 男性)
- ②この映画のような経験を最近しました。どうして外に出て人と会うのが怖いんだろうって、自分でもおかしいんじゃないかと思っていました。でも今回映画を見て、転んでもいいんだ、躓いたっていいんだって、少しずつ前に進もうって思えました。「卵を割らなければ、オムレツはできない」この言葉の意味が少しだけど分かった気がします。からを破っていけばきっと前に進める。自分の何かが見えてくるって思えました。本当に感動しました。有難うございます。  
(21歳～30歳 女性)

#### ○ 一般の人の視点から

- ①不登校、ひきこもり、無農薬農業、私自身関心あるテーマが盛り込まれていて、大変すばらしい映画でした。心に深く染み入り涙が止まりませんでした。どうも有難うございました。  
(41歳～59歳 女性)
- ②家族のあり方、いろんな人とのつながりを大切にする、大事なことに気付かせてくれる映画でした。  
(21歳～30歳 女性)

以 上